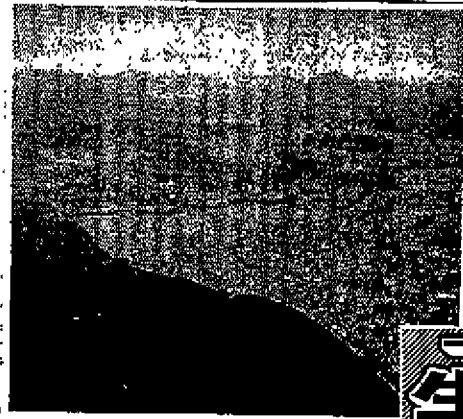


# これが「シニア移住」だ メソッドを訪ねて

「中高年の移住の聖地（メッカ）」として、毎年、日本中から移住を試みるシニアが集まる北海道伊達市。同市への移住者は、この5年間で2000人を超えているようになった。その成功の要因は、行政側の伊達市役所と地元企業の若手経営者が密接に手を組み、さまざまな中高年向け「生活直結サービス」を実現し、訪れたことにある。まず、「伊達版安心ハウス」。専門の調理スタッフに

北海道伊達市 官民で取り組み



よる食事提供も共同浴堂、フロントサービスなどの機能を持つ「シニア向け賃貸マンション」を、地元業者が



風光明媚な伊達市街（上）と市内中心部のシニア向け賃貸マンション（下）

## 「生活直結サービス」を実現

建設。伊達市がこれを認定し、その普及と拡大を奨励する。また、一部の住居は、伊達を訪れる移住希望者のために賃貸で貸し出し、「おためし移住」を経験してもらおうというものだ。

「すでに市の中心部に2棟が実現し、移住を希望する中高年が、道内、東京、埼玉、福岡など日本全国から「おためし移住」を体験しています」と伊達市企画財政部主任でみちまち

り謙の鎌田衛（まもる）課長。この「おためし移住」が気に入って、毎年秋に翌年の予約をする客が多く、新しい希望者が体験しにくいといううれしい悩みを抱えるほどだ。

一方、伊達での生活が気に入って、定住する人のために「郊外の田園地帯に開発したのが「伊達版優良田園住宅」である。こちらは、市が所有していた産業研究センターの跡地を民間テレポートに払い下げ、建築条件付きで分譲するもの。すでに第1期分譲53区画の半分以上の購入が決まっている。ゴルフ場に隣接し、家庭菜園も楽しめる土地付分譲住宅が約

### 「おためし移住」には希望者続出

504平方メートルの土地に、約152平方メートルの建物付で、約550万円、坪単価は平均3万7000円である。さらに、中心部に大型スーパーや専門店、大型病院が集まる「コンパクトシティ」化を進め、郊外から中心部に買い物に行くための車を持たない中高年向けには、入会登録手数料1000円で会員になれる「愛のりタクシー」も用意しました」（同課長）。これは前日に予約すると、目的地が同じ乗客をピックアップし500円単価で送迎してくれるというものだ。各種サービスを提供する人は、前出の住んでみたいまちづくり課で説明を受けたい。

民間企業に委託された「住居コンシェルジュ」サービスを受けることもできる。「伊達ウェルシーランド機構」と縁結ばれる「これ」の試みは、千葉商科大学長の島田晴雄氏のアイデアを、NITテータ経営研究所の協力のもと、柔軟な発想で認可した伊達市役所、伊達商工会議所、リスクを恐れない地元若手経営者が一体となって実現したものだ。

「生活直結サービス」の概要  
北の湘南と呼ばれる伊達市に今、多くの都会移住者たちが集まるのは、大りよい故郷を創るという「生活」と「熱意」のゆえだろ。

（ノンフィクション作家・桐山秀樹）